



**千葉大学呼吸器内科
後期研修プログラム
2021**

千葉大学 呼吸器内科

1969年 千葉大学呼吸器内科学教室として発足。
渡辺昌平教授就任。
1986年 栗山喬之教授就任。
2008年 巽浩一郎教授就任。

診療

研究

教育

わたしたち千葉大学 呼吸器内科は千葉大学医学部附属病院 呼吸器内科(臨床部門)と千葉大学大学院医学研究院 呼吸器内科学(研究部門)とが一体となり、診療と研究そして教育に励んでいます。若い先生方には、われわれ同門の一員となることにより、自分自身がより活躍できる場が広がることを期待しております。

医療、医学は一人ではできません。そこにはHuman Chainの形成が必要と考えています。その輪(和)の中で、一緒に21世紀に羽ばたきましょう。

千葉大学大学院医学研究院
呼吸器内科学名誉教授

巽 浩一郎



当教室は1969年(昭和44年)1月に千葉大学医学部において全国初の呼吸器内科単科の教室として設立しました。以後約半世紀にわたり多くの同門の呼吸器内科医を輩出しています。同門の医師は300人に及び、千葉県を中心とした多くの関連病院があります。毎年平均8名の新規入局者を迎えており、現在も医局としても益々大きくなっています。

当教室には他大学出身者も多く、女性医師も多数在籍しています。同門の一員となった先生方はそれぞれ関連病院での研修や大学院での研究を通して多くの経験を積み、呼吸器内科医として多方面で活躍しています。仕事と家庭が両立できる職場環境づくり、本人の希望に合わせた研修・進学・勤務、海外留学なども応援しています。

呼吸器内科医は必要とされている！

呼吸器内科医は不足している

千葉県をはじめ、全国で呼吸器内科医は不足しています。2014年の調査では全国の医師の中で呼吸器内科医は1.9%であり、患者数が多いにも関わらず循環器内科(4.0%)、消化器内科(4.7%)に比較すると少ない状況です。

呼吸器疾患はさらに増加

現在、肺炎、COPD、肺がんなど呼吸器疾患を有する患者は急増しています。また、日本の喫煙率は今だに高く、PM2.5などの大気汚染も様々な呼吸器疾患を引き起こす可能性があります。今後も呼吸器内科医が取り扱うべき疾患は多く存在すると予想されます。

関連・関連外病院からの派遣要請多数あり

千葉県内、都内の病院からの医師派遣要請が毎月のようにあります。大学病院としては、良き呼吸器内科医を育成し、呼吸器内科医師としての技術向上、経験集積、専門医取得、博士号取得を応援し、関東地域の呼吸器医療貢献の二ーズに答える責務を担っています。

みなさんは、ご自身の将来をどのようにお考えになっていますか。明確に描いている方もおられるでしょうし、一方で、医療や社会の変化が加速度を増す中、ロールモデルが不在であったり、まだはっきりとは描いていない方もいらっしゃると思います。当科はそのどちらであっても、みなさんのキャリア形成のお役に立てると考えています。

当科は、臨床・研究・教育の各方面で地域から国際的な視点での貢献に注力しています。臨床ひとつとっても、感染・COPD・アレルギー・腫瘍・肺循環・さまざまな原因による呼吸不全など、たいへんに広い領域を対象としています。医療の高度化に伴って、それぞれについての専門性が求められることは間違いありませんが、すべての技能を習得することは困難です。専門家がそれぞれの能力を発揮し、連携をとり、横断的・総合的な対応を行うことが必要です。また、研究についても同様で、広い視野をもった発想が求められます。当科では、SpecialistでありながらGeneralistとしての活躍を可能としています。

各領域の専門家が在籍し、多くの経験をみなさんと共有できます。そのためにはコミュニケーションが不可欠ですが、多様性を重視した雰囲気は当科の最大の強みです。また、後期研修病院として、千葉・東京・静岡などの有力病院と連携し、みなさんの希望に沿った研修ができる体制を構築し、多様な背景をもった方に活躍して頂ける環境を整えています。多様性を尊重し、みなさんのキャリア形成のお役に立ちたいと考えています。

ぜひ当科に興味を持っていただけると嬉しいです。

講師・医局長 岩澤 俊一郎

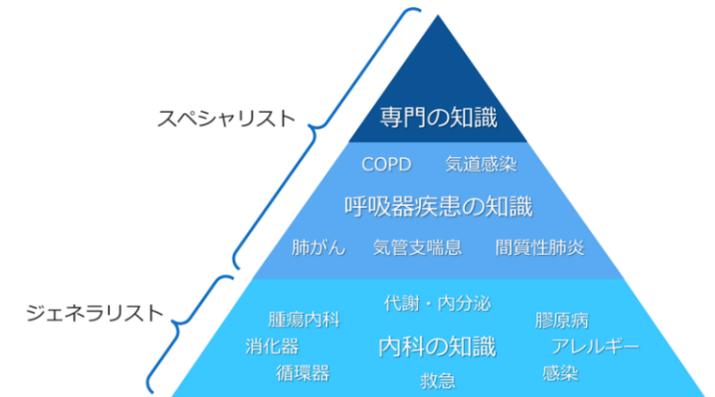


ジェネラリストとスペシャリスト

肺という臓器は呼吸を通じて外部と接触しているため、様々な病原体やアレルゲンなどに曝露されるとともに、他の臓器と血流やリンパ流を介して密接に関わっています。そのため、呼吸器疾患を診療するためには呼吸器領域だけではなく、幅広い内科の知識が必要となります。

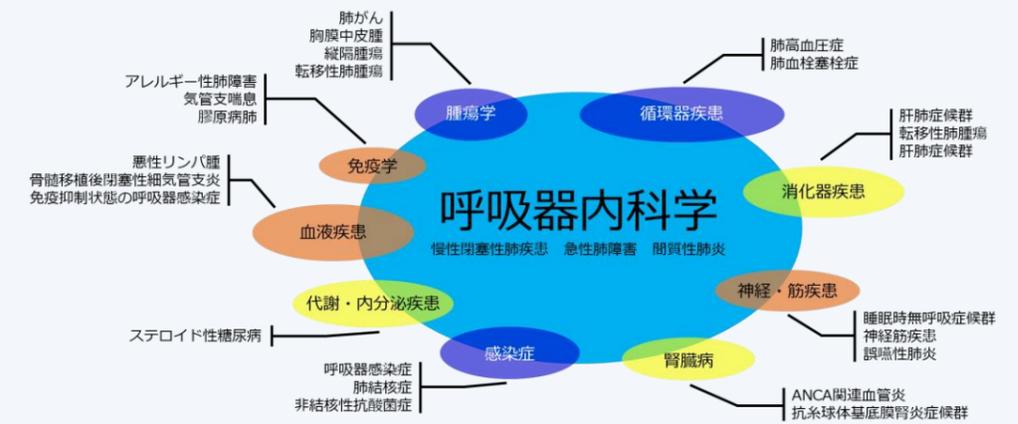
さらに気道と呼吸を扱う診療科であるため急変時や救急外来でも柔軟に対応可能であるとともに、緩和治療や看取りといった慢性期の管理も経験できます。

当科では呼吸器疾患を通じて、呼吸器スペシャリストであり、ジェネラリストである医師を育成するよう努めています。



呼吸器内科専門医に必要な知識

呼吸器内科での研修に興味を持っていただきありがとうございます。呼吸器内科で扱う疾患は非常に多岐にわたります。もちろん呼吸器だけの疾患もありますが、下の図にあるように他の内科系分野とオーバーラップした領域の疾患も数多くあります。これらの疾患は他の内科系診療科と連携しながら診療を行うことで、幅広い疾患を経験することが可能です。また当院は全国10施設ある肺移植の認定施設のひとつであり、呼吸器外科と協力して診療を行っています。



呼吸器内科学と各臓器の疾患との関係と代表的な疾患

さらに、呼吸器内科で扱う疾患には、未だに病態が解明されていない疾患、治療法がない疾患が数多くあります。当科ではそれらの解明・開発のために、治験や臨床研究、臨床検体を用いた基礎的研究などを積極的に行っています。当科での研修では、他の病院ではできないような経験も積むことが可能です。

特任助教・病棟医長 安部 光洋



呼吸器内科の多様性

後期研修プログラム

呼吸器内科後期研修

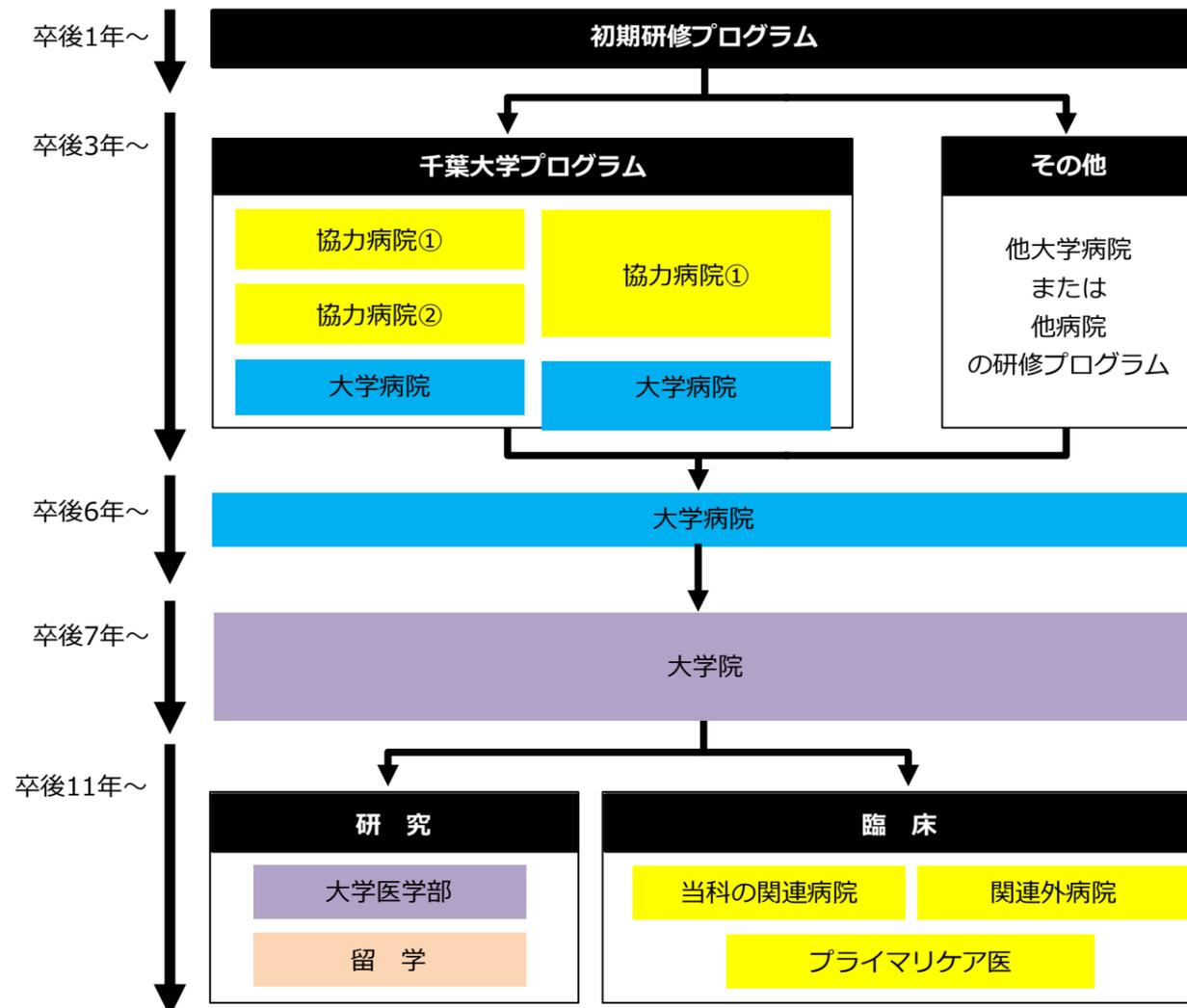
当科では初期研修後の卒後3年目から関連病院での後期研修が始まります。初期研修医と異なり主治医として入院患者さんを受け持つだけでなく、外来(一般内科外来や呼吸器内科専門外来)、気管支鏡検査、救急外来などにも積極的に関わることになります。

日々の経験を通して、いろいろな事ができるようになるのもこの時期です。後期研修で経験したことが将来の医師像を決めると言っても過言ではありません。

後期研修プログラムの概要

千葉大学病院の専門研修プログラム(内科領域)と連携しながら内科専門医、呼吸器内科専門医を取得できるようなプログラムを予定しています。

呼吸器内科のキャリアプラン



千葉大学呼吸器内科の関連病院

後期研修の実際

呼吸器内科の後期研修は検査や外来の割合が少なく、比較的病棟業務に携わる時間が長く取ることができます。そのため、患者さんや疾患とじっくり向き合うことができます。

一週間の予定の一例

	月 曜	火 曜	水 曜	木 曜	金 曜
午前	予約外来	病棟業務	抄読会 新患外来	病棟業務	病棟業務
午後	病棟業務 カンファレンス 病棟業務	気管支鏡 病棟業務	病棟業務	気管支鏡 病棟業務	病棟業務 カンファレンス 病棟業務

目の前の患者さんに対し、正しい診断や治療ができるよう、日々診療にあたっていますが、それは一人ではできません。千葉大学呼吸器内科には目標・模範としたい後期研修の仲間や先輩、指導医の先生方がたくさんいます。そのような多くの先生方に支えられ、少しずつですが前進できている実感があります。

診療だけでなく勉強会への参加・学会発表・論文執筆の機会に対してもどんどん後押しをしてくれます。皆さんもぜひ充実した後期研修を共にしましょう。

君津中央病院後期研修医 池田 英樹

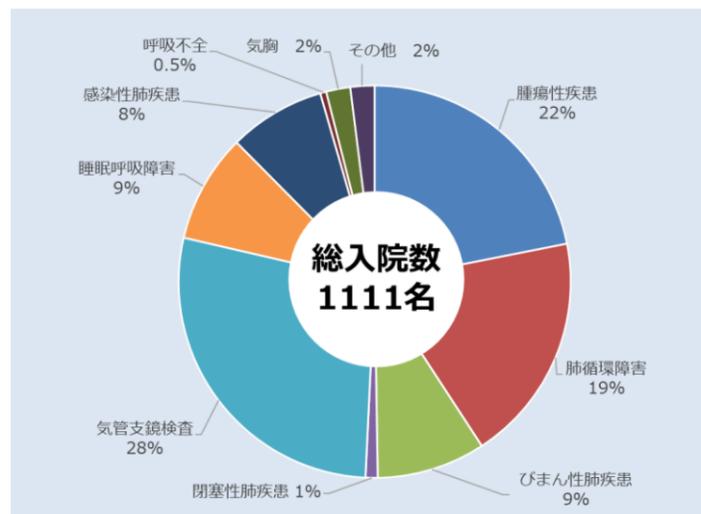


千葉大学病院 呼吸器内科

幅広い呼吸器疾患に対応しています

千葉大学病院では右図に示すように入院患者数が年間1,000例を超えています。肺癌や間質性肺炎といった一般的な呼吸器疾患から肺循環障害や睡眠呼吸障害など専門性のより高い疾患まで幅広く対応しています。また、他院からの転院依頼も積極的に受け入れています。

一般的な疾患から稀な疾患、急性期から慢性期と多くのことを経験することができます。



2018年 入院患者の疾患内訳

気管支鏡検査

多くの気管支鏡の経験に加え、最新のデバイスにも触れることができます。



気管支鏡検査は週2回に加え、緊急でも行っており、その件数は年間約400件以上になっています。超音波ガイドを用いた手技(EBUS-TBNA、EUBS-GS)を用いてより安全に正確に行うことを心がけています。また、胸部CTで作成した仮想気管支鏡や迅速細胞診を併用して検査にあたり、80%近い診断率が得られています。

呼吸器外科とも連携し、新規デバイスの早期導入や、ステント留置などのインターベンション治療も積極的に行っています。

肺移植

当院は肺移植認定施設として、2014年から肺移植を行っています。難治性呼吸器疾患の重要な治療として、呼吸器外科をはじめ多様なコメディカルと連携しながら、移植適応評価、移植後のフォローアップを行っています。さらにレシピエント肺の検体を用いた研究や肺移植の国際共同研究を実施し、医学、医療の発展に貢献できるよう努めています。

肺循環

当教室の設立当初から肺循環領域に力を入れており、現在は田邊教授を中心に千葉大学肺高血圧症センターとして肺高血圧症の診療・研究を積極的に行っています。

その臨床・研究成果は国内外の学会で発表されており、肺高血圧症の診療・研究では常にリーダーシップをとってきました。

関連病院だけではなく、関連外病院で研修している医師でも肺循環に興味を持ち、当科を訪れています。

心エコーや右心カテーテルなどの手技も学ぶことができます。



千葉大学病院

千葉大学病院は2015年7月にオープンした外来棟を始めとしてICUや手術室などが入る新中央診療棟、さらには医学部棟の整備を進めています。患者さんにとっても広く快適な空間であり、日々多忙な医療者にとっても働きやすい職場環境となっています。

病院としては千葉県地域医療の最後の砦として、高度で安全・安心な医療提供を目指しており、呼吸器内科もその一員としての責務を果たすことを心がけています。さらに2017年度より臨床研究中核病院としても認定され、臨床研においても重要な役割を持っています。他の診療科もすべて揃っており、様々な難治性合併症をもつ症例にも対応できることが、研修においても非常に勉強になる点になります。



2018年度1年間シニアレジデントとして大学病院で研修しました。

大学病院では多くの先生から根拠や安全性に基づいた指導を受けることができ、非常に勉強になります。経験した症例は合併症の多い疾患や希少疾患など印象深いものが多いですが、中でも入院で担当していた方が肺移植となり、手術・リハビリを行って元気に退院していかれたことは強く記憶に残っています。

忙しい中でも働き方改革として業務の効率化にも取り組んでおり、とても働きやすい環境です。ぜひ一度見学に来て、千葉大学呼吸器内科の雰囲気を感じてみてください。

大学院2年 鹿野 幸平



大学院 呼吸器内科学

千葉大学大学院呼吸器内科学

大学院生 30名、研究生 1名（2020年度）

当科では大学病院で1年間病棟医を経験した後に大学院に入学することになります。基礎研究と臨床研究どちらも行っており、大学病院での診療の中で生まれた興味や臨床上の疑問を参考に希望を聞きながらどちらに進むか決めます。

大学院2年目以降は研究に専念することが可能です。大学院生の間、海外(米国・欧州)の国際学会で発表することを応援しています。

基礎研究

肺高血圧症・間質性肺疾患・COPD・ARDSといった多様な難治性呼吸器病態を対象として、分子生物学的手法を用いた基礎研究を行っています。

当院心臓血管外科、呼吸器外科、救急科・集中治療部との連携下に採取したヒト検体を用いた研究、遺伝子組み換え動物などを用いたモデル動物実験や、培養細胞実験などにより研究を展開しています。

さらに学内の他の研究室や、筑波大学、順天堂大学など他大学の研究室、企業とも積極的に連携し、共同研究を実施しています。

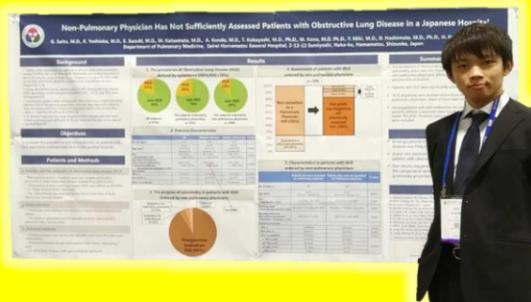
実験や研究の手順などは先輩からひとつひとつ教えてもらうことができます。



臨床研究

大学病院での診療を通じて、臨床研究を精力的に行っています。肺循環障害・間質性肺炎・COPD・睡眠時呼吸障害に対する診断・治療に関する研究、胸部CT画像診断に関する研究、胸部悪性腫瘍(肺癌・胸膜中皮腫)の診断・治療(遺伝子治療)に関する研究など幅広い領域の研究を行っており、発表や論文の書き方なども十分な指導を受けることができます。実臨床で抱いた疑問を解決するような臨床研究を行えるようサポートしています。

国内や国際学会での発表や論文作成も積極的に行っています。



大学院生活が3年目に入りました。医師として病棟での生活を送っていた時と全く異なり、研究生活は自己との戦いがメインになります。成果が短時間では得られにくい研究生活ですが、1年かけて出した成果がある程度形になるとやりがいもひとしおです。

ロールモデルとなる指導医の先生方や優秀な先輩・同期・後輩に囲まれながら、医師人生の中で病院とはまた異なるフィールドに身を置くこの時間はとても貴重な機会と感じています。当科の大学院では、時間の管理は比較的融通が利くため、多くの女医の先生方や育児にも積極的な男性医師がみられ、門戸を広く設けているのが特徴的かと思います。

興味のある先生方、ぜひ当科の大学院での生活もご検討下さい。

大学院3年 鈴木 英子



卒業後の進路

卒業後については大学で研究・臨床・教育で活躍する、海外留学の経験をする、または関連病院や関連外の病院で呼吸器内科専門医として活躍する、開業しプライマリケアに従事するなど様々な選択肢があります。キャリアプランに合わせてそれぞれが最大限に活躍できるように応援していきます。

呼吸器内科医はジェネラリストとスペシャリストであるため、どのような進路に行っても活躍できます。また、本人の興味を生かして呼吸器専門医としてだけでなく、腫瘍専門医や感染症専門医など自分の得意とする分野で大学や市中病院でその能力を発揮している先生方も多くいます。

留学

当科では大学院卒業後に主に米国の大学を中心とした研究施設に留学することができます。近年ではNIH(ワシントン)、ネブラスカ州立大学医療センター、コロラド大学、ウィスコンシン大学、カリフォルニア大学ロサンゼルス校、イリノイ大学、パリ大学国立肺高血圧センター、ヴァンダービルド大学などに研究留学をしています。現在もトロント大学に1名、アムステルダム自由大学に1名留学しています。

留学に興味がある方は留学経験のある医局員から様々なアドバイスを受けることができるので気軽に相談して下さい。



千葉大学呼吸器内科の特徴

1

呼吸器内科単科の教室として全国で初めて設立

呼吸器内科単科の教室として長い歴史を持ち、多くの呼吸器内科医を輩出してきました。その長い歴史の中で多くの診療・研究業績が生まれ、現在も多くの同門の呼吸器内科医師が活躍しています。全国の呼吸器内科の教室の中でも大きな教室です。

2

多くの新規入局者(他大学出身者も多数)

2020年は6名、2019年は9名、2018年9名の入局者を迎え、それぞれ関連病院での研修や大学院での研究に励んでいます。協力しながら切磋琢磨する同期をたくさん持つことができます。



3

本人の希望に合わせた研修・進学・勤務を応援

後期研修先については当科の関連病院の中から入局者の希望、経験、興味のある疾患に合わせて紹介できるよう配慮します。後期研修後の進路は、当科大学院博士課程を中心として、基礎系博士課程への進学、あるいは専門性の高い病院、地域中核病院での更なる臨床研修、国内外の研究施設への留学など幅広い選択肢を提供しています。

4

仕事と家庭が両立できる職場環境づくり

結婚、妊娠・出産、子育てを含めたライフスタイルに配慮した研修・研究ができるようにしています。女性医師が多く在籍しており、様々なロールモデルが見ることができます。



千葉大学呼吸器内科の日常

千葉大学呼吸器内科の診療・研究の一部をご紹介します。

カンファレンス・回診では様々なアドバイスが聞けます。



先輩のサポートの下で多くの実験を経験できます。



国際学会もいい思い出になります。



時には院外で親睦を深めることもあります



指導医から丁寧な指導が受けられます。



右心カテーテル検査も日常的に行っています。



当科では診療、研究に加え、医学生・初期研修医・後期研修医・大学院生それぞれの教育にも力を入れています。呼吸器疾患に限らず医師としてのキャリアパスなど興味があることやわからないことは気軽に聞ける雰囲気です。

大学病院を含め当科には熱血ドクター、面白ドクター、優しいドクター、美人ドクター、イクメンドクターなど多くの先生が在籍していますのでそのような先生方との交流も楽しめます。

特任助教 笠井 大

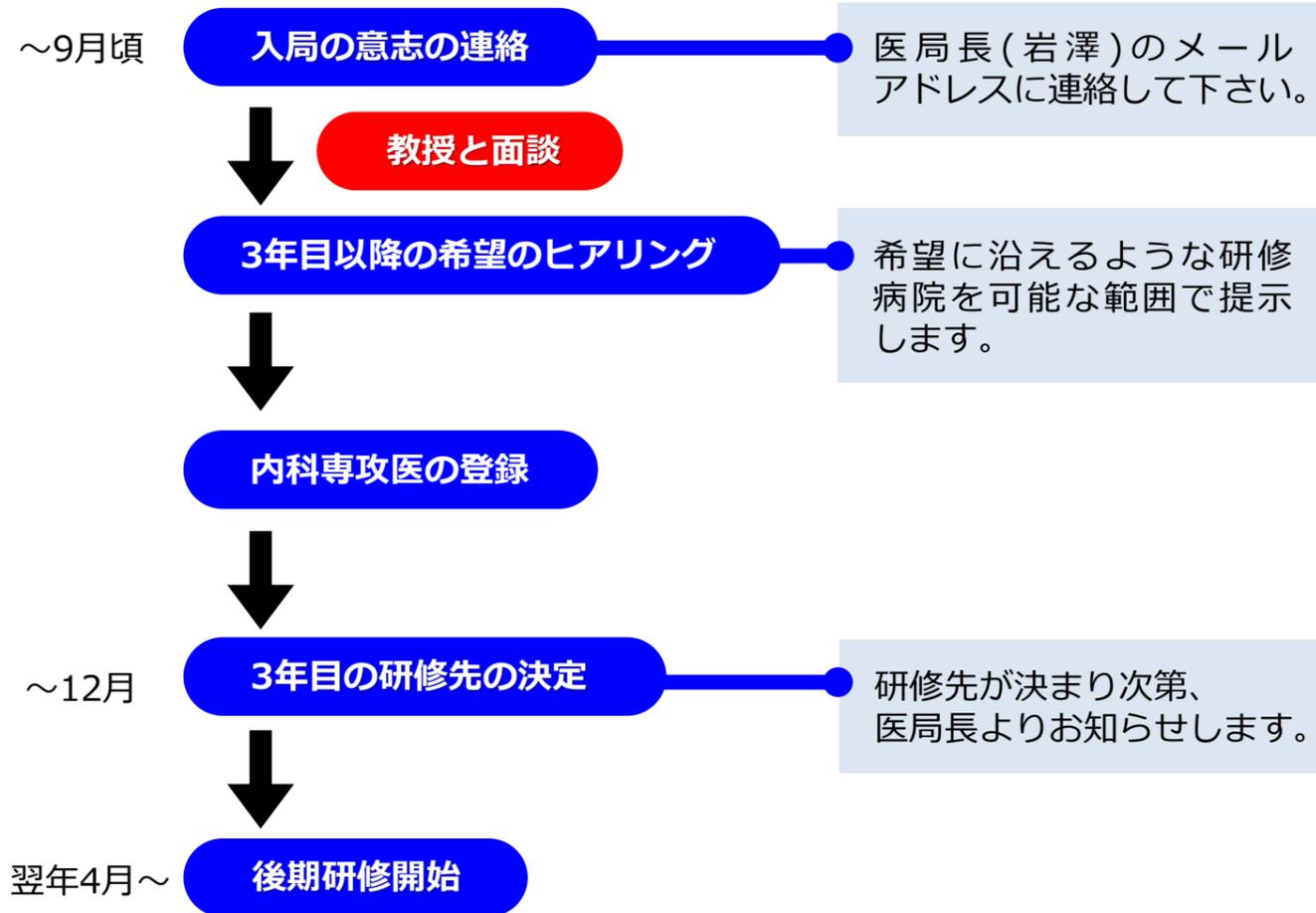


入局を希望される方へ

入局までの流れ

入局を希望される方は医局長(岩澤)のメールアドレスに連絡をお願いします。当科の後期研修は関連病院での研修から始まるため相談をしながら研修先を決めていきます。大まかな流れについては以下の図のようになります。

入局の意志の連絡には期限はありませんが、内科専攻医の登録のため9月が目安になります。



千葉大学医学部アクセスマップ



キャンパスマップ



質問や見学なども常時受け付けておりますので、気軽にご連絡ください。

研修プログラム責任者・連絡先

科長 坂尾 誠一郎

医局長 岩澤 俊一郎 iwawasas@chiba-u.jp

TEL : 043-222-7171 (内線 5471、5472、5473)

● JR千葉駅から

東口正面7番のバス乗り場から「南矢作」または「大学病院」行のバスに乗り、「大学病院」で下車。(所要時間約10分)

● JR蘇我駅から

東口駅前2番のバス乗り場から「大学病院」行のバスに乗り、終点「大学病院」で下車。(所要時間約15分)

● 京成電鉄 千葉中央駅から

タクシーをご利用下さい。(所要時間約10分)

● 車で来られる方へ

本院駐車場は、駐車スペースに限りがありますのでなるべく電車やバスなどの公共交通機関をご利用下さい。

千葉大学 呼吸器内科



<http://www.m.chiba-u.ac.jp/dept/respir/>

